

剣道の国際化 ～柔道競技との比較検証～

A study on internationalization of Kendo

～Comparison verification with a Judo game～

1K08B148-4 氏名 西村龍太郎

指導教諭 主査 太田章 先生 副査 矢野尊之 先生

【第一章 緒言】

現在、様々なスポーツが世界的に普及・発展を遂げている中、剣道もこれまで大きく進化し、発展してきた。剣道は、戦後一時禁止され、この世から剣道というものが消えかかったこともあったが、今では世界中で盛んに行われている。しかし、剣道は同じ武道である柔道に比べ、国際化しておらず、なぜ柔道にはオリンピックがあって、剣道にはないのか疑問を抱いた。そこで、柔道と剣道を比較してみて、今後どうすれば一人でも多くの剣道家を増やすことができるのかを考え、剣道の国際化に貢献できるのかを考えた。

【第二章 剣道と柔道の歴史】

剣道も柔道も現在のような形に至るまでにとても長い歴史がある。日本の武道がどういう歴史を歩んでき、柔道はどのような過程でオリンピック種目になるまでの競技に発展していったのかを知ることにより、今後剣道が国際的に発展していくためには何が必要なのかを考えた。

【第三章 国際化の現状】

柔道だけではなく、剣道ももはや日本のものだけではなく、世界でも盛んにおこなわれるようになり、老若男女問わずあらゆる領域で、多くの人々が稽古に汗を流している。競技人口では、日本の剣道人口の約 166 万人に対し、日本の柔道人口は約 20 万人と大幅に上回っている。しかし、世界で見ると、剣道は日本の競技人口が一番多く、二位である韓国の競技人口 60 万人と比べると日本が大幅に上回っている。柔道とはいうと日本よりフランスの方が競技人口が多く、現在では 60 万人を突破し柔道の競技人口としては世界一を誇っている。日本の 20 万人と比べると約 3 倍であり、国の人口が日本の約半分であることを考慮すると、日本の約 6 倍近い比率のフランス人が剣道をやっているということになる。そう考えると、やはり剣道より柔道の方が国際的に発展していると言えよう。そして、柔道は男子が 1964 年、女子が 1992 年にオリンピック種目になり、これまで男女共に好成績を収めてきたが、2008 年のオリンピックではいい成績が出すことができなかった。柔道がオリンピック種目になったことにより、世界との考え方の違いがででき、様々

な問題が生じることとなる。

【第四章 国際化する上での課題】

本章では、剣道が国際化する上でのメリット、デメリット、柔道が国際化した上でのデメリットをそれぞれ検証した。ここで、柔道がオリンピック種目になったことによって、メリットだけではなく、それと同時にデメリットも生じていたことがわかった。もともと、柔道は単に勝利至上主義を目指すのではなく、精神鍛錬という目的も掲げていた。しかし、オリンピック種目になったことにより、競技的側面だけが重要視され、本来の柔道の本質が失われたということである。それを、知った上で剣道が、理想的な国際化を目指すためには、ルールの問題、審判の問題、指導者不足という 3 つ大きな課題に直面した。剣道が、国際化することのメリットはとても魅力的であると思うが、それと同時にデメリットも発生するため、国際化するためには、慎重な取り組みが必要である。

【第五章 国際化に関する意識調査】

剣道の、国際化に対して、筆者以外の剣道家はどのように思っているのかが気になり早稲田大学体育会剣道部と OB の 56 名にアンケート調査を行った。国際化に関して 4 つの質問を記述で述べてもらったが、その中でも、「剣道は国際的に普及していくべきか」、「剣道はオリンピック種目にすべきか」という質問に対しては結果として、国際化はしてほしいがオリンピック種目にはしてほしくないという意見がとても多かった。剣道が国際化していくためには課題が多く、他の剣道家も今のままでは国際化することは難しいと考えていることが分かった。

【第六章 まとめ】

この研究を通して、日本剣道にとって、理想的な国際化とは、ただ競技人口を増やしたり、外国の選手との試合を設けたりすることではなく、日本の伝統文化を日本の剣道家こそがよく理解し、美しく潔い感動をみている者に与えることができれば、自然と日本の人々だけではなく、世界の人々にも魅力的に映り、日本の剣道家を目標とした多くの人々が剣道に関わりたいと思わせることで、世界に普及していくことであると分かった。